

日本労働年鑑 第57集 1987年版
The Labour Year Book of Japan 1987

第三部 労働組合の組織と運動

II 労働組合全国組織の動向

1 総評

1 概況

総評は、労働戦線再編・統一の展開のなかでその基盤を弱めてきた。全労協は八七年秋の「全労連」(「連合」)への移行を決めたが、同盟は以前からこれを「民間部門におけるナショナル・センター」と位置づけ、八六年一月の大会では「連合」発足による同盟の解体を決めており、総評のいわゆる「全的統一」論との相違を明確にしている。このため、総評は「全的統一」論をあくまで貫くのか、同盟主導への同調に終わるのか、自らの存在理由をかけた大きな試練に立たされている。

また、この間の「最大の闘争課題」であった国鉄の分割・民営化問題では、社会党案支持を国労にのませ、路線転換を求めてきたが、国労が臨時大会で「大胆な妥協」を拒否、左派執行部を確立し、総評指導部との矛盾の深まりをみせた。また日教組も、労戦再編問題にからんだ深刻な内部対立によつて、大会が開催されないなど、あらためて総評内の亀裂といわゆる指導力の低下もみせた。

日本労働年鑑 第57集 1987年版

発行 1987年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月1日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1987年版(第57集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)